
中国情報（畜産）

2008年5月26日号

- ◎ 中国・四川大地震、政府は農畜産物などの価格安定にも配慮
【独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 調査課】

※ この記事は、独立行政法人農畜産業振興機構が執筆・提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

「死んだ断層」が鳴動、死者は8万人以上とも

2008年5月12日午後2時28分ころ（現地時間。以下同じ）、中国四川省ガワ・チベット族チャン族自治州（ガワは収穫を意味するチベット語で、漢字表記の阿壩はその音写）汶川県の北緯31度・東経103.4度の地点を震源とするマグニチュード（M）8.0（当初、M7.8と速報されたが、中国地震局は5月18日、詳細な観測データに基づきMを上方修正）の地震が発生、その後も多くの余震が発生するなどしている。被災地域は四川省のほか、甘肅省、陝西省、重慶市、雲南省、山西省、貴州省および湖北省などにも及んでいるとされる。この地震を発生させた龍門山断層帯は、恐竜が生きていた2億～6千5百年前が主な活動期とされ、その後は目立った活動のない「死んだ断層」と考えられていた。

被災状況については、刻々と変化しているが、国務院防救災総指揮部（総指揮：温家宝国務院総理）の発表によると、5月25日正午までの時点における地震による死者は6万2,664人、負傷者は35万8,816人、行方不明者は2万3,775人に上ったと発表しており、温国務院総理は、最終的な死者が8万人に達する可能性について言及している。このうち、被災地で道路の復旧工事に当たっていた作業員200人以上が土石流に飲まれたされるほか、現地ではダムの決壊や地震による土砂崩れなどで川が埋まって生じたダム湖の氾濫など、二次災害の拡大も懸念されている。

農畜産業大省の被災に食品など物価上昇の懸念も

震源地となった四川省は、農業総生産額（2006年：林業、水産業および畜産業を含む）が2千6百億元（約3億9千万円：1元＝14.9円）余りで全国第6位、うち畜産業生産額は全

国第1位であるほか、野菜、果物、食糧（穀物、豆類およびイモ類）および油糧作物などの生産量も相当の全国シェアを占める農畜産業の一大生産地となっている。

四川省の農畜産業の概要

項目	単位	2006年		備考
			全国シェア	
農業総生産額	(億元)	2,602.1	6.1%	
農業	(〃)	1,075.1	5.0%	
林業	(〃)	76.7	4.8%	
畜産業	(〃)	1,317.4	9.7%	第1位
水産業	(〃)	87.2	2.0%	
野菜生産量	(万トン)	2,971.2	5.1%	第5位
果物生産量	(〃)	423.8	4.4%	
食糧生産量	(〃)	2,893.4	5.8%	第4位
もみ	(〃)	1,335.9	7.3%	第5位
小麦	(〃)	439.0	4.2%	
トウモロコシ	(〃)	511.2	3.5%	
豆類	(〃)	98.3	4.7%	第5位
イモ類	(〃)	460.6	13.5%	第1位
油糧作物生産量	(〃)	217.3	7.1%	
食肉生産量等	(〃)	690.8	8.6%	
豚出荷頭数	(万頭)	7,471.4	11.0%	第1位
豚肉	(万トン)	541.3	10.4%	第1位
牛肉	(〃)	29.6	3.9%	
家きん肉	(〃)	75.5	5.0%	
生乳生産量	(〃)	62.5	1.9%	
牛のみ	(〃)	62.0	1.9%	
家きん卵生産量	(〃)	171.7	5.8%	

資料：中国農業部「中国農業統計資料(2006)」

注：全国順位は、第5位以上の項目のみ示した。

2006年の統計では、食糧生産量が全国第4位となっているほか、主要産業である畜産業については、特に中国において生活必需品の一つと認識されている豚肉および豚出荷頭数は、ともに全国の1割強を占め、いずれも第1位となっている。また、油糧作物生産量は217万3千トン弱で全国の7.1%を占め、第6位となっている。これら農畜産物の生産量は、甘粛省や雲南省など近隣被災地まで含めると相当量・ウェイトになるとみられ、輸送路の寸断など流通上の問題も含め、今後、地震の影響により食糧や食肉、食用油などのさらなる価格高騰を懸念する声が上がっている。中でも、この1年ほど著しい高騰が見られた豚肉については、最近はやや下落ないし横ばい気味ながら、いまだ高水準にあることから、一時的に再上昇する可能性を指摘する声強い。

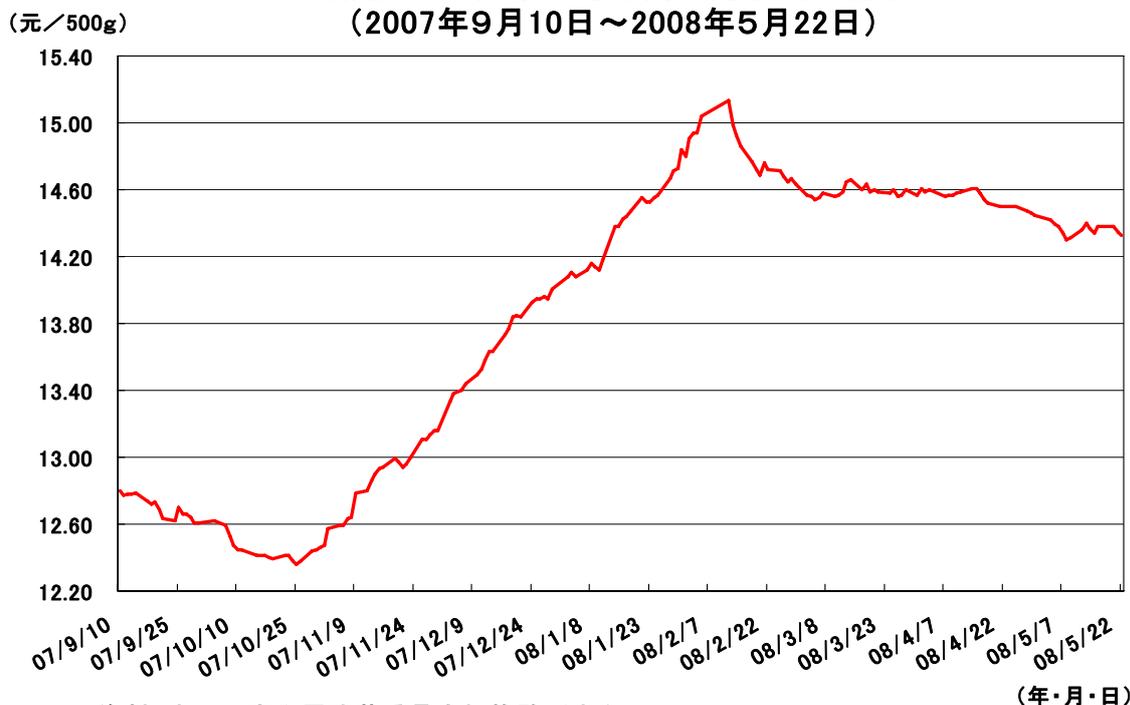
新華通信社のウェブネット版である新華網の5月21日付け午後9時40分掲載記事によると、農業部の統計に基づく四川省、甘粛省、陝西省および重慶市の4省市における家畜・家きんの死亡は1,523万頭（羽）で、そのうち豚の死亡は約100万頭、倒壊した畜舎および周辺施設は1,508万平方メートル、直接経済損失は67億元（約998億円）に及ぶとされる。

中央・地方政府は市場価格の安定にも配慮

中国政府および関係地方政府は、人命救助や被災者の避難生活の改善、今後の復興対策などに追われる一方で、市場価格の安定にも気を配っている。

商務部は5月20日、重要農畜産物の備蓄強化に関する通知を発し、特に豚肉については備蓄商品の種類を増加させ、都市住民の7日分の消費量を満たせるだけの水準まで備蓄規模を拡大するよう求めた。通知では、中央備蓄肉管理弁法および中央備蓄糖管理弁法に基づき、中央備蓄と地方備蓄、政府備蓄と商業備蓄、緊急備蓄と調整備蓄の連携を図りながら、備蓄商品の着実な管理強化が要求されたほか、食糧、食用油および化学肥料の輸出入管理を厳格に管理するよう求めている。これに先立ち、商務部は防救灾物資や食料などの調達・輸送の強化に乗り出している。また、商務部新聞弁公室は23日夕刻、上海市から甘粛省の被災地に向け、中央備蓄冷凍肉290トンを送ると発表した。

最近の中国における豚肉小売価格の推移
(2007年9月10日～2008年5月22日)



資料: 中国国家発展改革委員会価格監測中心

注: 36大中都市における豚赤肉の500グラム当たりの平均小売価格

同月21日には、農業部が人畜共通感染症および重大な動物感染症の防御、被災地の農畜産物供給および品質安全、農畜産業生産の強化および再建回復などに関する緊急通知を発した。また、22日には国家発展改革委員会が緊急通知を発し、食糧、食用油、野菜などの生活必需品価格の維持およびテント、鋼材、セメント、ガラスなどの救援・復興物資の価格安定の重要性を強調している。

四川省政府も5月20日、「価格監理の着実な監督管理の強化と市場物価の安定維持に関す

る緊急通知」(川府発電〔2008〕72号)を発し、省内各級政府および関係部門に対し、食糧、豚肉、野菜、食用油、油製品、薬品、テント、掘削機械など重要な商品の市場供給と輸送・配分の強化などを求めている。さらに21日には、同省農牧庁が、被災地における農産物の品質事故防止のため、農産物の品質安全に関する監督強化を求める緊急通達を発するなど、対応に追われている。

国家発展改革委員会の5月25日付け発表によると、四川省食糧局は24日、成都市、徳陽市、綿陽市、広元市およびガワ・チベット族チャン族自治州などの被災地向けに、コメ955トン、小麦粉310トン、食用油65トンなどを輸送し、中央備蓄食糧7,391トン、同備蓄油137トンを出庫した。また、24日までの四川省および甘肅省食糧部門が被災地向けに輸送した食用油は、累計でそれぞれ3万3,722トンおよび3,600トンとなった。

国家発展改革委員会および新華通信社などによると、被災地区における農畜産物などの市場価格は、今のところ安定しているとされている。

末筆となりましたが、四川大地震およびこれに伴う災害等により亡くなった多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された数多くの方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。